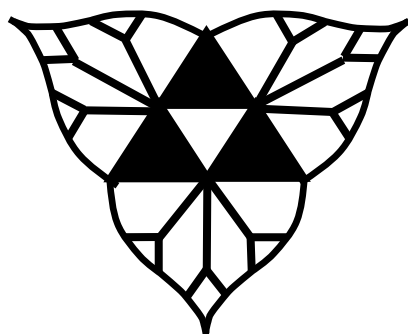


令和7年度学習シラバス

〔第2学年〕



学ぶ 鍛える 思いやる

八王子市立城山中学校

令和7年4月

もくじ

1	学習活動に臨む場	1
2	自己の取組を振り返り、学習方法を調整します	2
3	学習指導要領と学習評価（全学年共通）	3
4	国語	7
5	社会	9
6	数学	11
7	理科	13
8	音楽	15
9	美術	17
10	保健体育	18
11	家庭	20
12	英語	22

1 学習活動に臨む場

学校は、あなた自身が、そして仲間と共に沢山のことを学び合う場所です。学習活動に臨むにあたって、先生から教えていただく、あなた自身が取り組む、そして仲間と共に学ぶという3つの点で考えることが大切です。

学校は、教科の学習をするためだけに通っているではありません。学校における全ての学習活動（道徳科を含む各教科、総合的な学習の時間、学級活動、委員会活動、学校行事、部活動等）は、これからの社会がどのように変化して予測困難になったとしても、自分の夢や目標の実現を図る力を身に付けるために行うものです。

さらに、よりよく生きるためには、自分も相手も大切にする、自分を取り巻く多くの人に感謝する気持ちをもつことができる人となること等、人としての豊かな心を育てることも目的としています。

これらのことから、城山中学校において、誰にとっても大切な学習活動に取り組む姿勢について、確認をします。

◇一人一人の「学びに向かおうとする」気持ちが学習の場を創ります◇

- (1) チャイムとともに、落ち着いた気持ちで授業を始めます。
- (2) 授業に必要な持ち物は忘れません。忘れたら、あなたから先生に伝えます。
- (3) 姿勢を正して学習します。姿勢が崩れると身に付く力も減ります。
- (4) この時間の「授業のねらい」を達成させます。
- (5) 授業中に勝手なことはしません。何かあれば、先生に尋ねます。
- (6) 学校は間違いや失敗をしてもいい場です。間違いや失敗から学ぶことはたくさんあります。仲間の発言等に、笑ったり悪口を言ったりしません。
- (7) 丁寧な言葉遣いで話します。
- (8) どの先生に対しても、あるべき姿で授業に臨みます。
- (9) 始業と終業の起立時は、椅子を机に入れて正しい姿勢で挨拶をします。
- (10) 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします。

学び方の工夫

〈予習〉分からないところにチェックを入れる 自分なりのめあてをもつ

〈授業〉「今日のめあて」を確認する ノートに自分なりの気付きや疑問を書く
何が分かったか書き出す 何が分からなかったか書き出す

〈復習〉学んだ内容をまとめ直す 新たに沸いた疑問を書き出す

「正解」よりも、正解に至った「道筋」を大切にする

2 自己の取組を振り返り、学習方法を調整します

2年生の皆さんは、1年次に学習した内容が自分の力になっていますか。

1年生の内容が確実に身に付いている人は、2年生の学習と並行して1年生の内容の発展問題に取り組む事で、力を伸ばしてってください。また、理解が十分であるとしたら、その内容を誰かに説明をしてみてください。

なお、1年生の内容が十分に理解できていない人は、できていない部分に戻ることが必要になってきます。そして、「どの部分の内容が不十分なのか」を確認して、その箇所の復習に取り組みます。どの部分をどのように組みめばよいのかについては、ぜひ、先生に相談をしてください。あなたに合った学習の取組み方が分かってきます。

さて、2年生にとって、進路のことはまだ早いと考えるかもしれませんが、高等学校等の上級学校に進むことだけが「進路」ではありません。進路とは、自分の夢や希望、就きたい職業への実現に向けて取り組んでいくことです。そして、その夢や希望の実現のためには、学習活動を通して様々な課題に立ち向かい、対応できるだけの力を身に付けることが不可欠になってくるのです。自分自身の将来のことを考え、そのために学習するのだということを、十分に理解してください。

このシラバスには、2年生の1年間、日々の学校での学習や家庭学習の進め方、定期考査に向けての取組等、皆さん一人一人の学習を支援するための内容が、教科ごとに示されています。学期の初めや終わりによく読んで、「新たな知識を得る楽しさ」や「分かることの喜び」を実感し、学習の楽しさそのものを実感してください。

シラバスには次の内容が示されています。

- (1) 学習の進め方
- (2) 学習する上での注意
- (3) 家庭学習の進め方
- (4) 定期考査前の学習方法
- (5) 2年生での学習内容
- (6) 学習評価

3 学習指導要領と学習評価（全学年共通）

学校における教育活動の根幹に、国が示した「学習指導要領」があります。

これは、子供の変化や社会の要請、時代の変化等を踏まえながら約10年ごとに改訂をしており、中学校では平成29年に示された学習指導要領が、3年間の移行措置を経て令和3年度より完全実施となりました。

今回の改訂は、目まぐるしく変化し、先に読みにくい社会であっても、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。

また、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことを求めています。



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

（文部科学省HPより）

（1）学習評価についての基本的な考え方

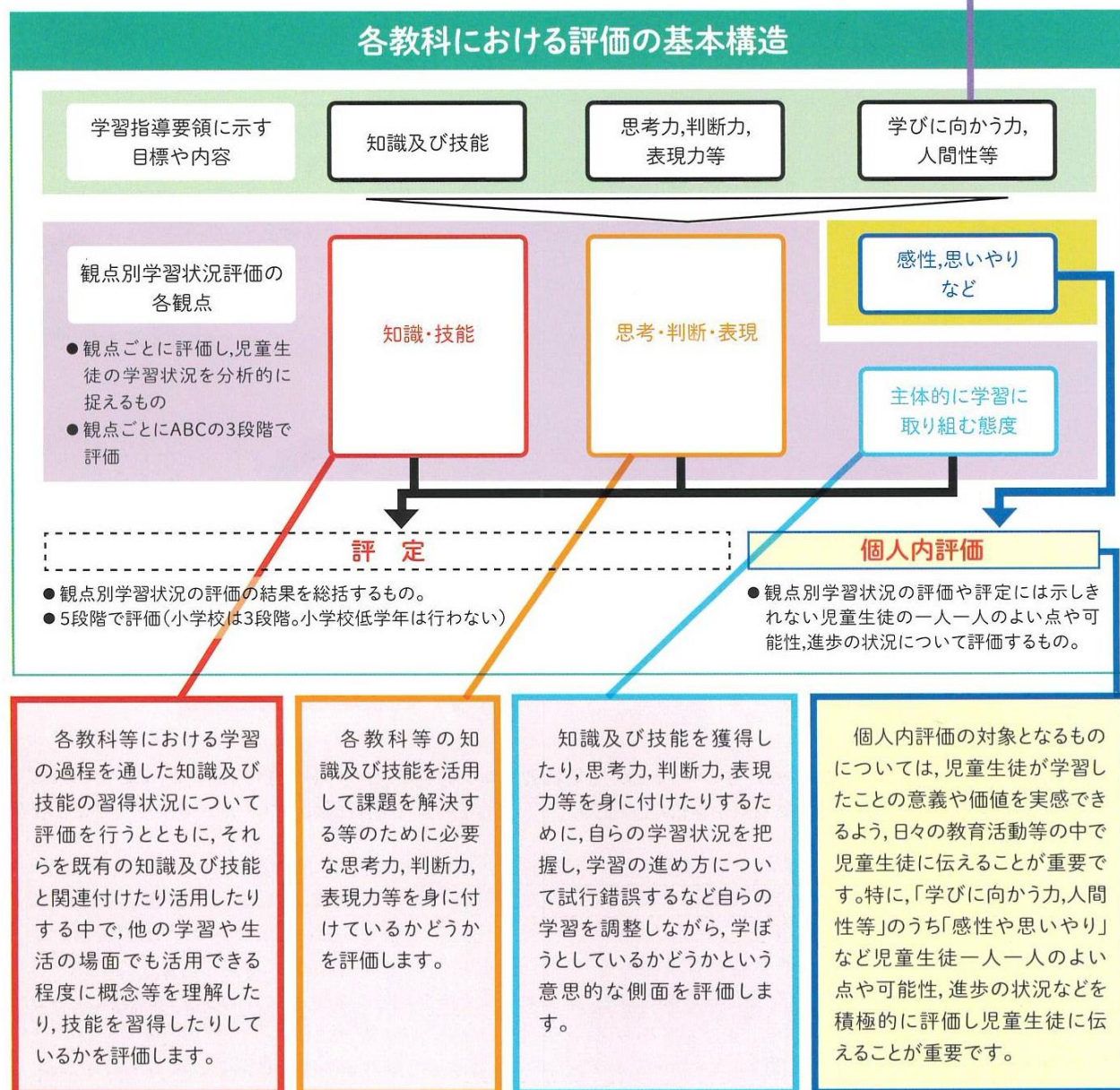
学習評価は、学校における教育活動に関しあなた方の学習状況を評価するものです。先生方にとってみれば、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、これからの指導の改善を図るとともに、あなた方が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程の見直し、学習の定着度の把握、指導方法の改善と一貫性のある取組を進めています。

(2) 学習評価の構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



(国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』より)

(3) 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領の内容に照らして、その実現状況がどの程度のものであるのかを観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えます。

定期考査は複数ある評価材料の一部であることから、定期考査の結果のみをもって、評価並びに評定算出の根拠にはならないことを御理解ください。

① 「知識・技能」の評価方法例

- ア ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得等問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮をする
- イ 生徒が文章による説明をする
- ウ 観察・実験、式やグラフで表現する等、知識や技能を用いる場面を設ける
- エ 実技の状況をみとる

② 「思考・判断・表現」の評価方法例

- ペーパーテストのみならず、以下の例による様々な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりします。
- ア 論述やレポートの作成
 - イ グループや学級における話し合いから深めた考え
 - ウ 作品の制作や表現等

③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

- 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえて、評価します。
- ア ノートやレポート、学習カード等の記述内容（提出状況ではありません）
 - イ 授業中の発言内容（回数ではありません）
 - ウ 教師による行動観察
 - エ 生徒による自己評価や相互評価の状況を教師が評価するときの材料の一つとして考慮

(4) 評価・評定の算出

- ① 中学校学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価した達成率によって、「観点別評価」を、**A・B・Cの3段階**で表されます。

80%以上	A（十分達成した）
50%以上80%未満	B（おおむね達成した）
50%未満	C（努力を要する）

- ② 中学校学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を総括的に評価した達成率によって 「評価」を、5・4・3・2・1の5段階で表されます。

観点別評価	達成率	評価	達成率
A	80%以上	5	90%以上 (特に程度が高い)
		4	80%以上90%未満 (十分達成した)
B	50%以上80%未満	3	50%以上80%未満 (おおむね達成した)
C	50%未満	2	20%以上50%未満 (努力を要する)
		1	20%未満 (一層努力を要する)

- ③ 本校で、設定した上記の基準を設定した場合における観点別評価と評価の関連

観点別評価	最大	最小	評価	観点別評価	最大	最小	評価
AAA	100	80.0	4, 5	ACC	66.6	33.3	2, 3
AAB	93.3	70.0	3, 4, 5	BBB	80.0	50.0	3
AAC	83.3	53.3	3, 4	BBC	69.9	33.3	2, 3
ABB	86.6	60.0	3, 4	BCC	59.9	16.6	1, 2, 3
ABC	76.6	43.3	2, 3	CCC	49.9	0	1, 2

(最大、最小単位：%)

- ④ 総合的な学習の時間の評価は、文章表記で表されます。
- ⑤ 特別の教科 道徳の評価は、学年末に文章表記で表されます。
- ⑥ 第3学年2学期の評価・評価は、第3学年4月から12月までの学習活動の状況と成果を表します。

4 国語

○時数…週 4 時間（週 2 時間：島田、週 2 時間：高村）

○内容…読解（現代文・古文）・文法・書写 「話す・聞く、書く、読む」

（1）学習の進め方

- ① 漢字小テスト・・・漢字練習字典を順番に学習する。
- ② 単元学習・・・教科書の内容を、便覧、ワーク、Chromebook、辞書、ワークシート等を活用して学習する。書写の学習には、B 以上の筆記用具や習字道具を使用する。
- ③ ふりかえり・・・授業内課題が未完の場合は、次時までに取り組み、完了する。

（2）学習する上での注意 約束事

- ① ノートは、縦書きとする。
- ② 常用漢字は必ず漢字で記載する。
- ③ HB 以上の濃い筆記用具を使用する。
- ④ 提出物は、指定日・指定時間内とする。（遅刻は満点を十分の一とする。）
- ⑤ 授業で使用したプリント類その他は全てファイルに綴じこむ。
- ⑥ 提出物は、指示された形態のみ評価対象とする。
例)「ノート提出」に、ノートを忘れ、紙で、または他教科のノートで提出しても評価対象にはならない。

（3）家庭学習の進め方

- ① 予習
 - ・ 漢字練習・・・硬筆書写の評価を兼ねる。
 - ・ ワーク・・・漢字、語句を中心に随時進めて可。
- ② 復習
 - ・ 授業内課題が未完の場合は、次時までに取り組み、完了する。
 - ・ 授業内容に該当する便覧、ワークを活用して学習する。
- ③ 提出物
 - ・ ノート、ワーク、プリント、Chromebook で等。余裕をもって完了し、理解を深める。

（4）定期考査の学習方法

- ・ 試験前のみならず、日常的な繰り返しの学習が必須。
- ・ 授業内容について、ノートを中心に、便覧・ワーク・Chromebook 課題・プリント等の該当箇所を充分見直し、「書く」学習を徹底する。

（5）持ち物

- ・ 書道の道具（墨汁・半紙・新聞紙）
- ・ のり はさみ 付箋 色ペン はいつも持ってくること。

(6) 使用教科書・主な教材

教科書	伝え合う言葉 中学国語2
ノート	現代文ノート・漢字ノート（島田） 古典ノート・文法ノート（高村）
副教材	よくわかる国語の学習2+MANAVIRIA 漢字練習字典 便覧 ファイル つまずかない！文法の学習

(7) 学習内容

学期	月	単元		書写
1	4	虹の足	文法の復習 活用のない自立語	硬筆
	5	タオル	付属語のいろいろ	
	6	日本の花火の楽しみ	課題を設定して伝える （スピーチ）	毛筆
	7	水の山 富士山 敬語	随筆の味わい（枕草子） 手紙を書く（お礼状）	↓
2	9	夏の葬列	随筆の味わい （徒然草・方丈記）	
	10	紙の建築	さまざまな考えを踏まえ討論 をする	
	11	走れメロス	敦盛の最期	毛筆
	12	ガイアの知性 話し言葉と書き言葉	意見文 （「ここにいる」を言う意味）	書き初め
3	1	学ぶ力	二千五百年前からのメッセー ジ	
	2	短歌の味わい	相違点を明確にして聞く	
	3	類義語・対義語・多義語・同音 語	小論文 （SNSから自由になるため に）	↓

(8) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査 小テスト 提出物
思考・判断・表現	1	定期考査 小テスト 発表活動 提出物
主体的に学習に取り組む態度	1	自己評価表 提出物

5 社会

(1) 授業の進め方

- ① 授業のはじめに、その時間の目標を先生が説明するのでしっかりと聞きます。
- ② 私語は厳禁です。
- ③ 先生の話は、先生の顔を見て真剣に聞きます。
- ④ わからないことはそのままにしないで、先生に質問してください。
- ⑤ 定期的にグループで行います。協力できるグループは実力が付きます。
- ⑥ 毎時間の授業のふり返りは必ず書きます。

(2) 学習する上で注意すること

- ① なぜそうなるのか、疑問をもつことが力を伸ばします。
- ② 自分の考えをしっかりと発言できるようにします。（間違ってもよいのです）
- ③ 提出物は、期限を守って必ず提出しましょう。クロムブックの提出物は期限が切れたら提出することができなくなります。

(3) 家庭学習の進め方

- ① 授業のあった日は短時間でよいので必ず教科書やプリントを見直します。
- ② わからない事があったらノートにメモして自分なりに調べてみます。
- ③ 課題が出たら必ず取り組みます。
- ④ 地理・歴史の完全学習を何回も解きなおして、答えられるようにします。

(4) テスト前の学習の仕方

- ① 教科書やプリントの内容を読み込み、確認して答えられるようになります。
- ② 白地図作業帳と地理、歴史の完全学習を活用して復習します。

(5) 学習内容

学期	月	単元名
1	4	【地理】身近な地域の調査、日本の地域的特色 【歴史】戦乱から全国統一へ 武士による全国支配の完成
1	5	【地理】日本の地域的特色 【歴史】武士による全国支配の完成 天下泰平の世の中
1	6	【地理】日本の地域的特色 【歴史】天下泰平の世の中 社会の変化と幕府の対策
1	7	【地理】日本の諸地域（九州地方） 【歴史】社会の変化と幕府の対策 欧米諸国における「近代化」
2	9	【地理】日本の諸地域（中国・四国地方） 【歴史】欧米諸国における「近代化」、開国と幕府の終わり
2	10	【地理】日本の諸地域（近畿地方） 【歴史】開国と幕府の終わり、明治政府による「近代化」の始まり
2	11	【地理】日本の諸地域（中部地方） 【歴史】明治政府による「近代化」の始まり、近代国家への歩み
2	12	【地理】日本の諸地域（関東地方） 【歴史】近代国家への歩み
3	1	【地理】日本の諸地域（東北地方） 【歴史】帝国主義と日本
3	2	【地理】日本の諸地域（北海道地方） 【歴史】アジアの強国の光と影
3	3	【地理】身近な地域の調査、まとめ 【歴史】アジアの強国の光と影

(6) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、小テスト、プリント、課題学習など
思考・判断・表現	1	定期考査、小テスト、プリント、課題学習など
主体的に学習に取り組む態度	1	プリント・課題学習、授業態度など

6 数学

授業時数…週3時間

クラス分け…習熟度別少人数クラス

(1) 学習の進め方

- ① 帯活動…授業の始めに既習事項の復習を行います。
- ② 単元学習、問題演習…教科書の問を中心に、練習プリント等を利用して演習を行います。
- ③ 宿題…必要に応じて課題を出します。

(2) 学習する上での注意

1年生では、計算の仕方や言葉の意味など、基礎・基本を身に付けてきました。2年生では、1年生で学習したことが土台となり、その土台の上に学習内容が積み上がっていきます。1年生の内容で苦手な単元があれば、気付いたときに復習をしておきます。

以下、細かな注意点を記載する。

- ① ノートは罫線入りのA4ノートを用意する。
- ② 途中式は省略せずに丁寧に書く。
- ③ グラフや図形は定規を用いて丁寧に書く。
- ④ 提出物は、指定日までに提出する。提出様式を守ること。
例) レポートは指定された用紙で提出する。...
- ⑤ 授業内で使用したプリント類は整理して保管する。

(3) 家庭学習の進め方

- ① 予習
 - ・ 新しい単元の予習は特に必要なし。
- ② 復習
 - ・ 習ったところの問題集のページを進める。その日のうちに学びを定着させること。授業ごとに前時に行った内容の復習を適宜入れていく。
- ③ 提出物
 - ・ 問題集…間違えた問題はそのままにせず、解答を見て間違えた理由と直しをしましょう。期限を守って計画的に取り組みましょう。
 - ・ 振り返りやレポート 定期考査などの振り返りや直しをきちんとしておきましょう。

(4) 定期考査前の学習方法

- ① 試験範囲の提出物を終わらせて自分の間違えた問題のページに付箋を付けておく。
- ② 問題集や授業で間違えたところや、分からなかったところをできるようになるまで繰り返して解く。質問して「分からない」を無くしていく。
- ③ ミライシードなどを利用して、練習問題を解く。

(5) 学習内容

月	学習内容	月	学習内容
4月	1章 式の計算	10月	4章 図形の調べ方
5月		11月	
6月	2章 連立方程式	12月	5章 図形の性質と証明
7月		1月	
8月	3章 一次関数	2月	6章 場合の数と確率
9月		3月	7章 箱ひげ図

(6) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	○定期考査 ○単元テスト
思考・判断・表現	1	○定期考査 ○単元テスト
主体的に学習に取り組む態度	1	○定期考査 ○単元テスト ○問題集 ○振り返りレポート

7 理科

(1) 学習の進め方

○授業構成A（教室）

導入：本時のめあて提示
展開1：例示実験／動画視聴／資料提示
展開2：解説／学習活動
終末：まとめ、振り返り活動

○授業構成B（実験室）

導入：実験の目的確認
展開1：実験の手順説明
展開2：実験活動
終末：結果の共有、考察

(2) 学習する上での注意

理科は身近な現象を学んでいく教科です。教室で知識を学んで終わりではなく、学んだ知識を実際に使ってみることが大切です。日ごろの体験からいろいろな現象に対して「なぜ？」という疑問をもつことができれば、それが理科への興味につながります。ぜひ身の回りの現象に興味をもって過ごしてみましょう。

また、理科は大きく4つの分野に分かれています。分野ごとに、1年間を通してどのようなことを学ぶのか、そこから逆算して今何を学んでいるのかを意識しながら学習を進めると、理解しやすくなります。

最後に、実験室では壊れやすい器具や危険な器具などがたくさんあります。正しい使い方を学ぶ前に使うと、器具の破損やけがにつながりますので、勝手に触らないようにしましょう。

(3) 家庭学習の進め方

予習より復習が大切です。家に帰った後、その日の授業資料（教科書、ノート、プリント等）を見返すだけでもかなりの学習効果が見込まれます。問題集を一括購入するので、対応するページをその日のうちに解くのもよいでしょう。家庭学習で分からなかったところは付箋を貼るなどし、後日先生に聞いたり調べたりしておく、効率よく学習が進められます。

(4) 定期考査前の学習方法

授業の資料（プリントやノート）を見返す、問題集や小テストを何度も理解するまで解きましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	未来へひろがるサイエンス2（啓林館）
副教材	理科の完全学習2年（正進社）

(6) 学習内容

学期	月	単元名	
		担当：羽鳥	担当：豊嶋
1	4	生物の体とはたらき	電流とその利用
	5	生物の体とはたらき	電流とその利用
	6	生物の体とはたらき	電流とその利用
	7	生物の体とはたらき	電流とその利用
2	9	化学変化と原子・分子	電流とその利用
	10	化学変化と原子・分子	電流とその利用
	11	化学変化と原子・分子	電流とその利用
	12	化学変化と原子・分子 地球の大気と天気の変化	電流とその利用
3	1	地球の大気と天気の変化	電流とその利用
	2	地球の大気と天気の変化	電流とその利用
	3	地球の大気と天気の変化	電流とその利用

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査（学期に1回）、実験の様子、授業プリント、小テスト
思考・判断・表現	1	定期考査（学期に1回）、実験レポート、発表、授業プリント、小テスト
主体的に学習に取り組む態度	1	授業ノート、授業の振り返り、テストの振り返り、提出物

8 音楽

(1) 学習の進め方

○実技（歌唱）

導入：本時のめあて提示
展開1：楽曲分析
展開2：発声練習、歌唱練習
終末：まとめ、振り返り

○実技（器楽）

導入：本時のめあて提示
展開1：楽器、楽曲分析
展開2：楽器練習、ペア・グループワーク
終末：まとめ、振り返り

○創作

導入：本時のめあて提示
展開1：創作の方法について
展開2：創作活動
終末：まとめ、振り返り

○鑑賞

導入：本時のめあて提示
展開1：楽曲分析
展開2：鑑賞、批評文
終末：まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

歌唱や器楽、創作、どの題材でも、「自分でやってみよう。」と思わないと上達しません。もっと上手になるためにどうしたらいいかを考え、実践しながら、学習していきましょう。鑑賞や、楽曲分析をするときは、なぜ、この曲は明るく、もしくは楽しく聴こえるのか、悲しく聴こえるのはなぜか、などを考えます。

音楽は、次の要素からできています。【音色】【リズム】【速度】【旋律】【テクスチャ】【強弱】【形式】【構成】この7つの要素から、気付いたこと、そこから感じ取っていること、があります。（例えば、速度が速いから明るい感じ、強弱が強いから元気な感じ。など）このことを、知覚・感受と言います。知覚・感受した曲を自分でどうやって表現するか、どうやったら表現できるかを考えてみて、「音楽を楽しむ」、ということをしてほしいです。

(3) 家庭学習の進め方

普段は家庭学習の必要はありませんが、授業内で終わらなかった振り返りなどがあれば終わらせておきましょう。また、合唱の練習など、授業内だけでは足りないものは、音楽のクラスルームに音源を張り付けるので、自宅で練習してみましょう。

(4) 定期考査前の学習方法

授業のプリント、教科書を見返す。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	中学生の音楽2, 3年上・下 中学生の器楽 (教育芸術社)
副教材	コーラスフェスティバル (正進社)

(6) 学習内容

学期	月	題材名
1	4	「夢の世界を」「フーガ ト短調」
	5	「フーガ ト短調」
	6	「創作課題」
	7	「交響曲 第5番 ハ短調」
2	9	「混声合唱曲」
	10	「混声合唱曲」
	11	「夏の思い出」「荒城の月」
	12	「ギター」
3	1	「アイーダ」「勸進帳」
	2	「世界の諸民族の音楽」
	3	「君が代」「校歌」

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	実技テスト・創作作品・定期考査・プリント
思考・判断・表現	1	実技テスト・創作作品・定期考査・プリント・批評文
主体的に学習に取り組む態度	1	授業態度・プリントの記述内容・実技テスト 創作作品・定期考査

9 美術

(1) 学習の進め方

○実技（製作活動）

- 導入 : 本時のめあて提示
- 展開1 : 実習内容の確認、進め方の確認
- 展開2 : 制作活動
- 終末 : 片付け、まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

- ・ 忘れ物をしない
- ・ 見通しをたてて制作を進める
- ・ 50分の時間の中で、制作のペースをつかむ
- ・ 他の人の作品の良い点をみつける

(3) 家庭学習の進め方

授業中の制作が主な活動となりますので、宿題等は特にありません。プリントの説明等、わからないところがあれば調べたり質問したりしてください。

(4) 定期考査前の学習方法

事前にポイントを指示しますので、指示されたポイントは確実に覚えるようにするとよいでしょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	美術2・3上 学びの実感と広がり（日本文教出版）
副教材	美術資料（秀学社）

(6) 学習内容

学期	月	単元名
1	4	鉛筆の世界（デッサンの基礎） 木彫 なべしき①
	5	
	6	
	7	
2	9	木彫 なべしき② つくって使って味わう工芸
	10	
	11	
	12	
3	1	ハイコントラストイラストレーション（デザイン・絵画）
	2	
	3	

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、作品、授業プリント、振り返り
思考・判断・表現	1	定期考査、作品、授業プリント、振り返り
主体的に学習に取り組む態度	1	作品、授業プリント、授業態度、振り返り

10 保健体育

(1) 学習の進め方

○授業構成（保健分野）

導入：本時のめあて提示

展開1：資料や課題の提示

展開2：考察等、学習活動（個人／グループ）

終末：まとめ、振り返り活動

○授業構成（体育分野）

導入：本時のめあて提示

展開1：内容及び進め方の確認・準備運動

展開2：練習・試合等（個人／ペア／グループ）

終末：まとめ、振り返り活動

(2) 学習する上での注意

- ① 1年生で身につけた基本的な知識や技能をさらに高め、多様な運動に挑戦します。
- ② 運動中の安全確保は最優先です。先生の指示をよく聞き、ルールやマナーを守りましょう。
- ③ 学んだ知識を「知っている」だけでなく、「使える」ように、生活の中で実践しましょう。

(3) 家庭学習の進め方

体育分野は復習より予習が大切です。事前に授業内容のフォームやポイントを見ておくだけで（教科書、ノート、タブレット掲載の資料等）イメージがわき、学習効果が見込まれます。実際に体を動かし、授業の中でわからなかったところは先生に聞いたり、グループワークでクラスメイトと分析することで、効率よく学習が進められます。

(4) 定期考査前の学習方法

授業の資料（プリントや学習ノート）を見返す、教科書を理解するまで読み込みましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	新しい保健体育
副教材	ステップアップ中学体育・学習ノート

(6) 学習内容

学期	月	単元名	
		担当：北村	
		【体育分野】	【保健分野】
1	4	体づくり運動・陸上競技（短距離・リレー）	傷害の防止
	5	バレーボール	傷害の防止
	6	バレーボール・水泳	傷害の防止
	7	水泳	傷害の防止
2	9	体づくり運動・器械運動	健康な生活と疾病の予防②
	10	器械運動・柔道	健康な生活と疾病の予防②
	11	柔道・ソフトボール	健康な生活と疾病の予防②
	12	陸上競技（長距離走・走り幅跳び）	健康な生活と疾病の予防②
3	1	ダンス	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方
	2	体づくり運動・バスケットボール	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方
	3	バスケットボール	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査・実技テスト・試合内評価・学習ノート（体育分野） プリント（保健分野）・単元ごとのレポート等
思考・判断・表現	1	学習ノート（体育分野）・プリント（保健分野）の記入内容（気づき、分析、課題、学び合い） 話し合い活動時の行動観察・試合内評価
主体的に学習に取り組む態度	1	学習ノート（体育分野）・プリント（保健分野）・行動観察・提出物の状況や欠席

11 家庭

(1) 学習の進め方

○講義

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 教科書、プリント、ワークノートを使って進める

終末 : まとめ、振り返り

○実技（被服製作）

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 実習内容の確認、進め方の確認

展開2 : 被服実習

終末 : 片付け、まとめ、振り返り

○実技（調理実習）

導入 : 本時のめあて提示

展開1 : 実習内容の確認、進め方の確認

展開2 : 調理実習

週末 : 片付け、まとめ、振り返り

(2) 学習する上での注意

「自分の生活はどうだろう？」と考えながら学習をするとよいでしょう。例えば、肉の調理に関する講義では「家だと豚肉は〇〇の料理で使っているな」など自分の生活と照らし合わせて考えると理解が深まります。また、授業で習ったことを家で実践してみると、知識や技能が高まります。

裁縫道具や調理実習のエプロンなど授業に必要な道具は自分で準備しましょう。貸し借りはしません。

実習はミシンや包丁、ガスなど事故の危険性が高い授業内容です。道具を正しく使用し、実習内容を理解しながら安全に実習に臨みましょう。

(3) 家庭学習の進め方

普段は家庭学習の必要はありませんが、授業内で終わらなかった内容などがあれば、終わらせておきましょう。家庭で自分の仕事を担っていれば、実習や教科書の内容がよく理解できます。また、夏休みと冬休みの2回、実習を伴う宿題を出します。期日までに提出をしてください。

(4) 定期考査前の学習方法

試験範囲の授業のプリント、教科書、ワークノートを見直し、重要なポイントをまとめしっかりと覚える。教科書やワークノートに学習ページや練習問題があれば、自主的に取り組み、確認をしましょう。実習内容が範囲の場合は、製作の手引き、手順や縫い方、実習内容や切り方などを丁寧に復習しましょう。

(5) 使用教科書・主な教材

教科書	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）
副教材	ワークノート

(6) 学習内容

学期	月	単元名
1	4	ガイダンス 私たちの食生活
1	5	生活を豊かにするために…製作の基礎技能 生活を豊かにするために…被服製作
1	6	生活を豊かにするために…被服製作
1	7	生活を豊かにするために…被服製作
2	9	生活を豊かにするために…被服製作
2	10	生活を豊かにするために…被服製作
2	11	私たちの食生活 日常食の調理と地域の食文化
2	12	私たちの食生活 調理のための食品の選択と購入
3	1	私たちの消費生活と環境 私たちの消費生活
3	2	私たちの消費生活と環境 責任ある消費者になるために
3	3	私たちの消費生活と環境 責任ある消費者になるために

(7) 観点別評価の割合と評価の主な対象

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期考査、作品（製作物）、ワークノート、プリント
思考・判断・表現	1	作品（製作物）、ワークノート、プリント、宿題等
主体的に学習に取り組む態度	1	ワークノート、プリント、作品（製作物）等

12 英語

(1) 授業の約束

- ① 学習道具や宿題を忘れない。
- ② 「聞く、話す、読む、書く」などの活動にしっかりと集中する。
- ③ 提出物は期限を守りましょう。

(2) 授業で使う道具について

持ち物にはすべて、ネームペンで学年・組、出席番号・氏名（日本語）を記入する

- ① 教科書
- ② 授業用ノート（4 線がついているもの）
- ③ Joyful Workbook（英語のワーク）
- ④ ファイル（1 年時のものを引き続き使います。）
- ⑤ Let's enjoy Bingo



(3) 授業のノートづくりについて→詳しくは授業にて説明

【ノートづくり】

- ① 予習
 - ・ 左ページに、本文、新出単語を英語で写す。教科書を見て新出単語の品詞と意味を調べ、右ページに書く。
- ② 授業中
 - ・ 右ページに、板書と練習問題の答えなどを書く。
→授業中に自分が大事だと思う表現・意味などをメモすることも大事！

(4) 評価について

評価の観点	割合	評価の主な対象
知識・技能	1	定期テスト「知識・理解」の得点、小テスト
思考・判断・表現	1	定期テスト「思考・判断・表現の問題」の得点、パフォーマンステスト（スピーチ、音読、会話テスト等）
主体的に学習に取り組む態度	1	提出物、休み明けテスト・小テスト・パフォーマンステストの態度の点数等

(5) 学習内容

学期	月	単元名
1	4	[復習] 未来を表す表現 (will, be going to)
	5	Take Action 、接続詞 (when, if, that)
	6	Take Action 、不定詞
	7	スピーチ (My dream)
2	9	There is/ are , have to/ do not have to
	10	Take Action call[show,make] A B
	11	比較級、最上級、同格
	12	スピーチ (What is the most popular~?)
3	1	現在完了形 (経験) , Take Action
	2	現在完了形 (継続、完了) ,
	3	A Pot of Poison

(6) 最後に

英語上達のコツは繰り返すことです。この1年間諦めず頑張りましょう！

Everybody has talent, but ability takes hard work. - Michael Jordan

誰もが才能を持っている。でも能力を得るには努力が必要だ。- マイケル・ジョーダン